

さいたま市

授産支援アドバイザー派遣事業



さいたま市障害者総合支援センター

〒338-0013 さいたま市中央区鈴谷7-5-7

電話:048-859-7255 FAX:048-852-3272

E-Mail:syogaisha-sogo-sien@city.saitama.lg.jp



障害者施設が取り扱う
授産製品やサービスの問題点について
改善に向けたアドバイス支援を行います。

さいたま市授産支援アドバイザー派遣事業について

利用者の工賃向上につなげる



障害者施設が取り扱う授産製品やサービスの問題点について、さいたま市では専門的技術や知識を持つ障害者授産支援アドバイザーを施設に派遣し、改善に向けた助言や指導を行っています。

授産支援アドバイザーにご登録いただいているのは、デザイナー・調理師（食品製造）・清掃・手芸（織物）・HP作成等、様々な分野の専門家（※一覧表は右記掲載）です。施設の課題やニーズに合わせてアドバイザーを直接、施設に派遣しているため、当センターでは各施設の概要を把握した上で、アドバイザーによる必要な助言や改善案を提案していきたいと考えております。

■指導可能な技術

利用料は、無料です。アドバイザーにかかる交通費・食費等の負担はありません。

しかし、必要な物品・道具の購入等は施設の負担となります。

1つの希望項目について、最長5回までアドバイザー派遣は可能です。

（アドバイザーの支援回数に応じた謝金を当センターが支払います）

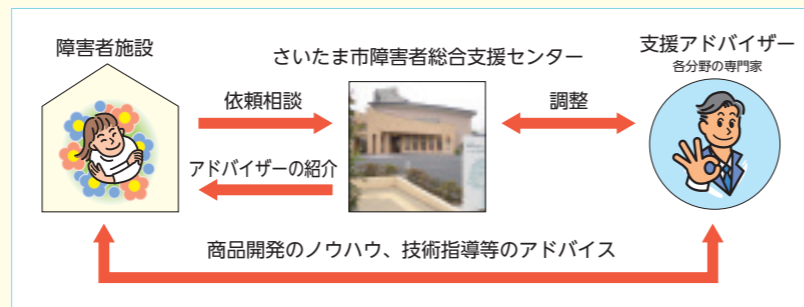
■利用可能な対象施設

- (1) 就労移行支援事業所
- (2) 就労継続支援事業所（A型・B型）
- (3) 生活介護事業所
- (4) 障害者支援施設（就労移行支援・就労継続支援・生活介護を行うものに限る）
- (5) 地域活動支援センター
- (6) 小規模作業所

■利用方法

施設からの支援希望に応じて当センターで各分野のアドバイザーを人選し、施設とのマッチングを図ります。

ご利用にあたっては、申請書・報告書等の書類の提出が必要となります。ご利用の際は、再度詳しくご説明させていただきます。



■授産支援アドバイザーによる技術支援一覧

カテゴリー	指導可能な技術等
パッケージデザイン・広告・商品開発	工業デザイン、量産用設計
	パッケージデザイン、イラスト、商品企画、開発支援
	ディスプレイデザイン・インテリア・壁画・イラスト
	販売支援・販路開拓・マーケティング
	ディスプレイデザイン
	コンセプトワーク・コミュニケーションデザイン、キャッチコピー
	広報・広告制作
	プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン
	コスト・品質指導、バイオプラスチック容器の使用
	デザイン（WEB）、ラッピング、撮影、手作りキャンドル等の指導
洋裁・手芸	造形活動
	毛織物製造技術、洋裁
	さをり織り技術指導
	着物の着付け
	毛織物製造技術
	毛糸織物、陶芸、手芸、パッチワーク
製造・販売	染色技術指導、作品の展示・販売方法など
	フラワーアレンジ
	製菓製造技術指導、新製品の提案、販売支援
	洋菓子、パン作り
衛生	食品や化粧品等の製造・加工・包装、保存に関する技術
	清掃指導（手順・作業方法）
日常生活	水泳・健康運動指導、パソコン技術指導
	健康食作りの指導、経営診断

■さいたま市障害者総合支援センター内施設商品展示



■目次（支援アドバイス実施施設）順不同



支援事業所

社会福祉法人 邑議会

しびらき

支援期間 2012年5月～9月

支援前 (コロんちゃん)



支援前 (とっぺおっキー)



施設の主力製品はクッキーやパウンドケーキ。特にクッキーの種類が多く、商品化している「コロんちゃん」シリーズは女の子のイラストを使った絞り出しソフトクッキー、「テッキーくん」シリーズはハードな食感の型抜きクッキーで手のイラストを使用した。また、パウンドケーキ「ふわりん」シリーズは鳥と雲のイラストを使用している。各商品パッケージは、入居者の手描きでシール展開する。しびらきは他施設のクッキーデザインに刺激を受け、授産支援アドバイザー派遣事業に応募。今回のリニューアルに関してはキャラクターを活かしたデザインでまとめた。デザインの方向性はキャラクターの可愛らしさとクッキーの素材をイラストで表現すること。また、「しびらき」は地名であるが、ブランド化して認知度をアップさせるためにロゴマークとして新たに開発した。



施設からの支援希望

パッケージ等のデザインは、これまで利用者や職員が手づくりで対応してきたものだが、専門家の手により魅力的に改善されれば、利用者の元気にもつながるのではないかと。また、施設商品イメージの統一は、今後予定されているパン販売事業につなげていくためにも有効と考えられる。

アドバイザーによる実施支援

- 1. クッキーのパッケージリニューアルのためのデザイン開発



Shibiraki Cafe
しびらきカフェ・シンボルマーク



シンボルマークの提案



新キャラクター：コロんちゃん テッキーくん ふわりん



商品：クッキーラベルデザイン



商品：パウンドケーキラベルデザイン

支援事業所

一般社団法人 ノーマライズうらわ

グリーンフィンガーズ

支援期間 2009年10月～2010年2月

販売風景



全国第2位の生産量を誇るうどん県、埼玉。「グリーンフィンガーズ」は主力製品であるパウンドケーキに加え、今回新たにさいたま市のキャラクターを用いた半生うどんを販売する。パッケージデザインをするにあたり、商品名を「ヌうどん」として、さいたま市のキャラクターを登場させ贈答品として開発。パッケージは店頭販売することを見据えて、表面は横、裏面は縦にレイアウト。多様なアイデアを提案し、最終的に素朴で素材感があるデザインに決定した。食品で一番大切な食の安全性についての表示等もパッケージ側面に明記。また、半生うどんのおいしい茹で方と調理方法を、イラストで紹介したしおりを制作。
※麺は讃岐うどんの亀城庵から仕入れる。

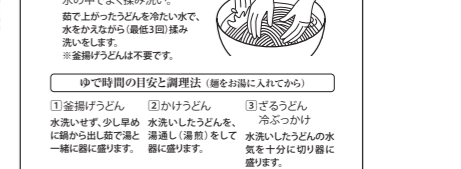
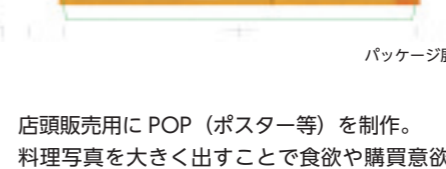
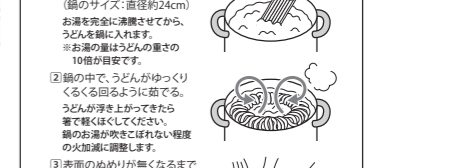


施設からの支援希望

以前もパウンドケーキラベルのデザイン等で専門家に指導を受け売上向上につながっているので、今回も新製品「ヌうどん」の販売にあたって、さいたま市のキャラクターを用いたパッケージデザインの指導を受けたい。

アドバイザーによる実施支援

- 1. 「ヌうどん（讃岐うどん）」販売に向けたパッケージデザイン開発
- 2. 店頭用販促物（ポスター等）のデザイン



パッケージ展開

デザイン提案

店頭販売用にPOP（ポスター等）を制作。料理写真を大きく出すことで食欲や購買意欲を刺激し、店頭で説明しなくてもうどんの美味しさをストレートに伝えることができる。

半生うどんのおいしい茹で方

- ① たっぷりのお湯で茹でる。300gの場合はリットル（鍋のサイズ：直径約24cm）お湯を完全に沸騰させてから、うどんを鍋に入れます。※お湯の量はうどんの重さの10倍が目安です。
- ② 鍋の中で、うどんがゆっくりにくくなる目安のように茹でる。うどんが浮き上がってきたら箸で軽くさしてください。鍋のお湯が吹きこぼれない程度の火加減に調整します。
- ③ 表面のぬめりが無くなるまで水の中によく洗ひ洗い。茹で上がったうどんを冷たい水で、水をかきながら（最低3回）よく洗ひをします。※釜揚げうどんは不要です。

ゆで時間の目安と調理法（麺をお湯に入れてから）

①釜揚げうどん	②かけうどん	③ざるうどん
水はかき、少し早く湯を流し、湯から出して湯を絞ります。	水はかき、湯を流し、湯を絞ります。	湯を流し、湯を絞ります。
約7分（沸騰後）	約8分	約10分

茹で方のしおり



支援事業所

社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会
春里どんぐりの家
支援期間
2012年5月～2013年3月
2013年9月～12月

支援前



【はじめての方へ】
「カズエさんのたわし」は、聴覚障害者が1枚1枚でいねにつくりあげた手編みアクリルたわしです。水だけで汚れがキレイにとれる。

カズエさんのたわし

水だけで汚れがキレイにとれる

洗濯機、キッチンまわり、洗面台、浴槽などの汚れに

▲ラベル：小

【はじめての方へ】
「カズエさんのたわし」は、聴覚障害者が1枚1枚でいねにつくりあげた手編みアクリルたわしです。水だけで汚れがキレイにとれる。

カズエさんのたわし

水だけで汚れがキレイにとれる

食器洗い、キッチンまわり、洗面台、浴槽などの汚れに

▶ラベル：大

施設からの支援希望

施設における手づくり商品の質の向上と利用者の製作意欲の向上を図り、賃金アップにつなげるために、専門家の指導を受けたい。

アドバイザーによる実施支援

- さいたま市のドラッグエースに納品するアクリルたわしのデザイン開発
- 突板という樹木 0.3mm 程に薄くスライスした材料の端材を編んだシートを活用する製品開発



支援後 2色用、1色用の淡色アクリルたわし

授産製品として一般製品とコストで対抗しないように、あくまでも手づくり(手編み)授産製品であることを訴求する。たわしのネーミング案については、親近感を感じさせるため製作者の名前を明記して「カズエさんのたわし」とする。製品は大小2種類あり、大は2色扱い(同色系)、小は単色扱い(ピンク、イエロー、ライトグリーン→いずれも女性が好きな色)とすることで差別化を図る。パッケージ(PP袋)の大小を選び、ラベルは仕上がりコスト等を考慮し、印刷外注にする。



支援後 コストを抑える為に二つ折りの製品



希少な樹木を使用し、様々な樹種を組み合わせた高級感のあるインテリアトレイを開発。試作を重ねて完成度を高め、ブランド名を「木里結：KORIYUI」として、作り手の思いを伝えるパッケージを制作した。

支援事業所

社会福祉法人 さいたま市社会福祉事業団
春光園うえみず
支援期間
2010年11月～2011年3月
2015年11月～2016年3月

ステンシル制作風景



撮影テクニック指導



施設からの支援希望

授産製品はステンシルふきん・ハンカチ、アクセサリー等。これまで疑問を感じていた問題点を解決しながら、専門デザイナーによる指導で、よりよい製品づくりを望んでいる。また、古いパンフレットは情報も古く、現状に合っていない点が課題。

アドバイザーによる実施支援

- お客様視点の商品開発(施設ブランドロゴ、商品パッケージ、ステンシル絵柄の改良、撮影のテクニック指導)
- 施設紹介パンフレットのリニューアル

商品ブランドマーク
施設シンボルマーク

きらきらストラップ

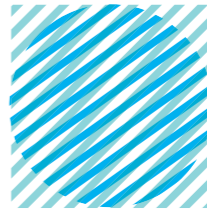
このたびは、当施設で作りました手作り製品をご購入いただき、ありがとうございます。これらの商品は、春光園うえみずに通う知的障害をもつ方々がそれぞれ役割を担い、協力して作り上げたものです。日々の生活の中でお使いいただければ幸いです。

〒331-0064 さいたま市西区後畑川 299-16
TEL048-625-3171

たったひとつの手拭い

このたびは、当施設で作りました手作り製品をご購入いただき、ありがとうございます。これらの商品は、春光園うえみずに通う知的障害をもつ方々がそれぞれ役割を担い、協力して作り上げたものです。日々の生活の中でお使いいただければ幸いです。

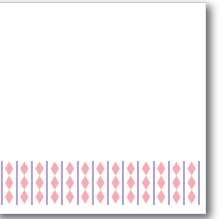
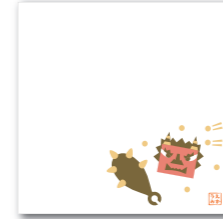
〒331-0064 さいたま市西区後畑川 299-16
TEL048-625-3171



ステンシル用パターン提案



ふきん製品



ハンカチイラスト提案

施設の授産商品は、ステンシルふきん、ハンカチ、ビーズストラップ、アクセサリー。これらの商品デザイン、パッケージの改良等について、ヒアリング、現状分析、商品・パッケージの改良案、CIロゴ提案等の提示、販売支援ツールの協議を行い、施設の考えを反映する。ステンシル絵柄の改良では、シリーズ化していくこと、オリジナルであることを尊重して、バランス・リズム・色使い等を踏まえ、スタッフが作業しやすいイラストを考える。また、施設のロゴマークにはスローガン「いつもみんなきらきら」を付記し、春光園の「光」をとり、きらきらで強調。



支援前：施設紹介パンフレット



支援後 生活介護事業パンフレット&チラシ

国の方針で、24時間365日の支援体制となることを受けて、いままでの「生活介護事業」に「相談支援事業」が新たに加わり、地域の支援対応が広がることになった。それに伴い、各ニーズに応えられる施設案内を、事業内容別に2種類作成することとした。また、パンフレットに活動写真を入れることで、利用希望者が入所後の生活をイメージしやすく、さらなる安心につながる。募集時には効果的なツールとなります。誌面データは、施設でも写真等を差し替えられるようにワードデータで製作。



支援後 生活介護事業パンフレット&チラシ

支援事業所

社会福祉法人 もくせい福祉会
ほっとラウンジ
 支援期間
 2011年10月～2012年3月
 2014年11月～2015年2月

支援前



打合せ風景



施設からの支援希望

商品（クッキー等）をより良く見せるためのイメージ統一ならびパッケージデザイン等の支援を希望。また、新店舗開設に向け、内装等についてプロの助言をいただきたい。

アドバイザーによる実施支援

1. ほっとラウンジ施設、クッキーブランドマークとクッキーラベルリニューアル
2. 新施設オープンに向けて、店舗内外のカラーリングとインテリアコーディネート



Hot lounge
 商品ブランドマーク



Relieved lounge
 施設マーク



支援後の商品

支援前のクッキーは種類の判別がしづらく、また、4コ入りパッケージの開封時の問題があり、これを解消するため表面シールに変更する。施設から「障がい者が作った」クッキーでなく、一般の商品と並べられるクッキーにしたいという要望があり、また材料費も高騰しているため、利益を増やす工夫として高級感のあるパッケージデザインを開発、販売価格を20円アップして120円に設定。



店舗内デザイン案



テーブル配置（分割）

施設が望んだ店舗は、近隣の方々がつったりと気持ち良く、くつろげるカフェ。同時に施設利用者がお客様と触れ合うことで自立の励みとなる店にしたいとの要望があった。そこで内装デザインは、ぬくもりが感じられるオシャレな木製ラウンジにこだわった。また小さいスペースでも効率よく座れる4分割テーブルやカラフルな椅子をオリジナルで開発。



商品展示スペース



テーブル合体時

支援事業所

社会福祉法人 もくせい福祉会
てづくり厨
 支援期間
 2016年4月～2016年6月
 2016年11月～2017年2月

支援前



撮影指導風景



施設からの支援希望

資金的な理由でお弁当の「のぼり」は出しているが看板を出していないため、アピール度が低く、「何やっているところ？」と聞かれたこともある。また、ラベル等が垢抜けなく、統一感がない。また、店舗オーニングや看板等を作成して店をアピールし、売上げアップを図りたい。

アドバイザーによる実施支援

1. 施設のイメージを決定づける「てづくり厨」ロゴ&シンボルマーク、スローガンの開発
2. 宣伝媒体（チラシ等）、商品表示等のシールデザイン
3. 店舗前のデザイン（オーニング等）



支援前 POP



スタッフが修正可能なワードで製作

お弁当屋さんとして、一般の方が多く買い求めていただけるお店にしたいという希望から、「てづくり厨」の認知度を上げるためのデザイン開発を行う。

まずはじめにロゴ&マークを制作し、決定したブランドマークをマニュアル化する。マニュアルにそって統一感のある宣伝ツールを展開することができた。また施設内の価値の共有による意識の向上、さらには品質や生産性、就職希望者の増加などの効果も期待できる。

デザインの決定には、スタッフ全員で決める多数決を採用。メンバーどうしで最終案を決めていくことの有意義性を感じた。



支援後
 新 POP



シンボルマーク提案



店舗前提案



支援後



テントの設置目的は 1. 線路上部からの雨漏りを防止と、2. ハトの糞公害対策だが、同時に外部から何の店なのかを認識させ客を誘導する役目も大切である。テント色は赤基調に決定。遠くからも認識され目立つ看板（オーニング等）でお弁当屋さんであることが一目でわかるファザードにする。



新ロゴタイプとシンボルマーク

支援事業所

一般社団法人 ノーマライズうらわ

ぺんぎんカフェ

支援期間：2017年4月～7月

支援前



施工の準備



施設からの支援希望

内装は建築業者によって、カフェらしくリニューアルしているが、店舗前のディスプレイ等は施設職員が飾っているため、ディスプレイのバランス等がバラバラに混在していて、見やすさ、分かりやすさ、入りやすさが欠けてしまっている。

アドバイザーによる実施支援

1. くつろげるカフェをアピールする店舗前ディスプレイ
2. 掲示板等に貼る、POP デザイン (のぼり、メニューポスター等)



旧シンボル



新シンボル



店舗デザイン案



支援後



2015年11月、さいたま市浦和区領家の浦高通り沿いにオープンした「ぺんぎんカフェ+グリーンフィンガーズ」は、一般社団法人ノーマライズうらわが運営する「グリーンフィンガーズ」のアンテナショップ。店内には、「グリーンフィンガーズ」が作っているパウンドケーキや「ヌウ焼き」も販売され、コーヒーや紅茶と共に店内で楽しむこともできる。

カフェ内はある程度整っているが、店舗前は雑然としてカフェとして分かりづらく、入りづらい。そこで、低予算で魅力あるカフェに仕上げるために、現状の外観を残しながらアンティークな外観デザインとした。掲示板に貼るメニュー等も、アンティーク調に合わせてデザインを統一。



新メニュー (木目調)



新メニューポスター

支援事業所

OMIYA ぱりあフリー研究会

ノイエ

支援期間：2013年12月～2014年1月

指導風景



「つなが竜ヌウ」グッズの1つである「ヌウキャップ」の工程管理と品質をあげるための技術指導を行う。まず、指導員のヒアリングを行い、支援すべき問題点と指導方法について説明。問題点として、フェルト素材の裁断、ミシンの縫い方、作業効率、帽子に縫い付ける時の各パーツのセット、またパーツの型抜きの問題等があった。5日間の指導の中でブラザー工業からカッティングマシンの実演を行ってもらい、さらに型抜きした各パーツのミシン縫いの指導を受けたことで、クオリティーの高い商品に仕上げることができた。

施設からの支援希望

さいたま市マスコットキャラクターである「つなが竜ヌウ」をかたどった帽子「ヌウキャップ」の製造工程の簡略化や見直しにより、制作時間の短縮と量産への対応を図りたい。また作業道具の見直しにより、現在製作に加われない利用者の作業参加をできるようにしたい。

アドバイザーによる実施支援

1. 「ヌウキャップ」の大量依頼があったときの作業効率を上げる方法
2. 帽子の製作における技術取得
3. 営業販売活動の助言



支援前



支援後



ミシン縫いの指導



パーツ



カッティングマシンの実演

支援事業所

社会福祉法人 いーはとーぶ

街のステーション

支援期間：2014年7月～10月

制作ソフト操作風景



施設からの支援希望

室内作業としては内職が中心だが、内職がもらえない時、清掃が苦手な方や体力の無い方のために、PC等を購入して衣類等のプリントや、ビデオのDVD化等ができる状態になった。しかし、購入した機材の知識がほとんどないため、作業が進んでおらずアドバイスを頂きたい。

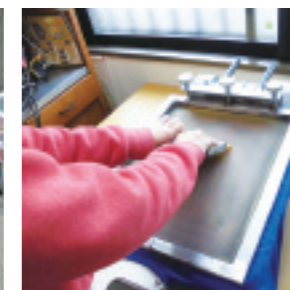
アドバイザーによる実施支援

1. 衣類等にプリントするための購入パソコンと制作ソフトの技術習得
2. 販路の拡大とコスト計算等のノウハウ

街のステーションは様々な室内作業をしているが、新事業に向けて新たにシルク印刷機、PC機器、そして制作ソフトを導入。今回は主にTシャツ、エコバックなどへの印刷、ステッカー制作などに必要なillustratorやphotoshopの基礎的な使用方法を指導した。制作ソフトは習得に時間がかかるが便利なソフトであるため、技術力を磨くことが大切。この他に、印刷代等の価格設定やその周知方法などもアドバイスを行った。



大宮駅コンコースで販売



シルク印刷実演



制作ソフト指導



打合せ風景



エコバック (つながる竜ヌウのデザイン案)